

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2017-09-15

APM news 177

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

第39回美術館大学 第一部 8月4日(金)pm1:50~pm3:20 / 受講者:91名 / 講師:上野裕治
「ランドスケープ・ストーリーズ」



2017年8月4日(金)、秋山孝ポスター美術館長岡(APM)展示室において、第39回美術館大学を開催した。2013年以來、4年ぶりに二部制での開催である。第一部を長岡市地域振興戦略部・地域づくりアドバイザーであり、元長岡造形大学建築・環境デザイン学科教授の上野裕治氏に、第二部を(株)高田建築事務所・取締役会長の高田清太郎氏、同代表取締役社長の高田清之介氏、APM館長であり多摩美術大学教授の秋山孝氏の3氏に務めていただいた。

第一部の上野氏は「ランドスケープ・ストーリーズ」と題して、自身の取り組んだプロジェクトを例題に、「パラダイム」とからめて講演した。プロジェクトでは農村におけるイノベーションを考えた。イノベーションは「技術革新」と訳されることが多いが、本来的には「価値基準の変革」という意味である。パラダイムという言葉が使われる「パラダイムシフト(注)」と共通するところのある言葉である。

上野氏は、長岡市内で3つのプロジェクトを展開している。1つ目は三島地域の「竹あかり」、2つ目は蓬平地域の「雪あかり」、3つ目は比礼地域の「かかしプロジェクト」である。三島の竹あかりでは、竹を斜めに切断し、その中にろうそくの灯りを灯す。毎年10月に行われ、25,000個もの竹灯りが並ぶ。竹の節部分を切断し、節に2つの穴をあけるのが三島の竹あかりの特徴だが、その一手間で灯りが笑顔に見えるから不思議だ。蓬平の雪あかりは2月下旬から3月上旬の開催で、地域の神社及びその周辺をろうそくの灯りで彩る。雪だるまを制作したり、賽の神を行ったりもする。蓬平は温泉で有名な地域であるが2、3月は寒さも厳しく、雪に閉ざされる。その中で地域に住む人々を元気にするイベントとして開催されている。

3つの事例に共通するのは、いつもの風景にある刺激を加えることで変化する一瞬の風景を楽しむことである。また、展示作品のデザインは抽象化し、ストーリー性を持たせることを重視した。竹あかりの笑顔にしる、雪あかりの雪だるまにしる、デザインはシンプルでストーリーを投影しやすい。雪だるま2つが寄り添っていたら、見る人は雪だるまを親子と見たり、恋人と見たり、自由に想像できる。それが重要なのだという。

こうした農村の機能は、生産地であることがそのひとつである。しかし、生産地としての農村の多くは農業従事者や農地の減少により既に破綻している。その対策として考えられることは3つあると上野氏は語る。1つは米の単価を上げること。米の単価が上がれば、農業で生活を成り立たせることができる。2つ目は直接支払い制度の導入。日本は価格支持、つまり関税を課すことで高い国内価格を維持している。これを農家に対して補助金を払うことで農家の所得を維持する直接支払い制度に移行することで、日本の農業は守られるのではないかと。3つ目はライフスタイルを変換することである。例えば食料の半分を自給自足する、半日農業に従事し、半日会社員として勤めるなど、農業+αの考え方を持つことである。定年後は田舎で暮らしたいという夢を持っている人は多いだろう。そういった人々を呼びよせ、農地や空き家、耕作機械等も貸し、稲作も教える代わりに、農業の担い手として農村を守ってもらう。こうしたイノベーション、パラダイムシフトを考える時期に来ているのではないかと上野氏は訴えた。(森山奈帆・APM職員/APM公式ホームページより抜粋)

注) 思考や概念、規範や価値観が、枠組みごとに移り変わることを。